

2026年度入社式について

2026年4月1日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、2026年4月1日（水）10時から、国立研究所において、「2026年度入社式」を行いました。

入社式では、役員立ち会いのもと、渡辺郁夫理事長から新入職員16名に辞令が手渡されました。引き続き、理事長から新入職員へあいさつがあり、それを受け、新入職員の代表が答辞を述べました。



写真 理事長から辞令を受け取る新入職員

理事長あいさつ要旨

本日、鉄道総研に入社された16名の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんを鉄道総研の新たな仲間として迎えられることを大変うれしく思っています。

本日から皆さんが研究開発や業務の対象とする鉄道は、人々の生活や経済活動を支える社会インフラとして、重要な役割を果たしています。その一方で、近年は自然災害の激甚化や労働力不足、さらにはカーボンニュートラルの実現など、取り組むべき課題も数多く存在しています。

こうした状況の中、鉄道総研では、「革新的な技術を創出し、鉄道の発展と豊かな社会の実現に貢献します」というビジョンのもと、さまざまな課題解決に全力で取り組んでいます。本日より、皆さんにもその一員として加わってもらい、これらの活動をさらに加速させていきたいと思いをします。

これから専門家として業務に携わっていくにあたり、三つの点をお願いしたいと思います。

第一に、鉄道の現場をよく見て、深く理解することです。研究開発の課題の多くは現場にあり、なぜそのような



写真 新入職員にあいさつする渡辺理事長

業務の進め方や仕組みになっているのかに関心を持つことが重要です。自身の専門知識や技術を、鉄道の中でどのように活かせるのかを常に考えながら、課題解決に取り組んでほしいと思います。

第二に、視野を広く持つことです。近年は、多様な技術やデータを活用した分野横断的な問題解決が求められています。専門分野のみにとらわれることなく、広い視点で課題を捉え、柔軟に取り組んでいくことを期待しています。

第三に、DXやGXといったデジタル技術や環境の視点を常に意識してほしいと思います。安全性や生産性の向上、脱炭素化は鉄道分野における喫緊の課題であり、皆さんの若い感性を活かした挑戦に大いに期待しています。

鉄道総研は、鉄道技術の基礎から応用まで幅広い分野を扱い、研究にじっくりと取り組める環境を備えています。また、研究成果の社会実装を強く進めており、その効果を実感できる場もあります。ぜひ前向きに挑戦を続け、ここ鉄道総研で自身の目標や夢を実現しながら、鉄道の未来を築いていってほしいと願っています。

新入職員代表者答辞要旨

本日は、私ども新入職員のためにこのような入社式を執り行っていただき、誠にありがとうございます。新入職員一同を代表して、心より御礼申し上げます。

ただいま、理事長より心温まる歓迎と激励の言葉をいただき、深く感銘を受けるとともに、身の引き締まる思いでございます。本日より公益財団法人鉄道総合技術研究所の一員として皆様と共に働くことを誠に光栄に思います。

社会情勢は多様化しており、研究者が取り組む、研究開発や課題解決の手法にも変化が生じているなかで、私たちは本日賜りました言葉を胸に、さまざまな技術を融合した研究に日々精進してまいりたいと考えております。そして、鉄道の新しい価値の創出および、持続可能な鉄道システムの創造に貢献できるように邁進していく所存です。

しかしながら、私たちは未熟なうえ、至らない点も多くあると存じます。

一日でも早くみなさまのお力になれるよう、精一杯努力してまいりますので、どうぞご指導ご鞭撻のほど何とぞよろしくお願い申し上げます。

以上簡単ではございますが、答辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



写真 答辞を述べる新入職員